

## 保育計画成果報告書

|         |                                              |
|---------|----------------------------------------------|
| 法人名     | ナチュラルスマイルジャパン株式会社                            |
| 施設名     | まちの保育園 六本木                                   |
| 報告者（役職） | 本村洸輔（コミュニティーコーディネーター）                        |
| 住所・連絡先  | 東京都港区六本木一丁目 9 番 10 号アークヒルズ仙石山森タワー1F          |
|         | ☎ 03-6441-2478<br>E-mail info2@machihoiku.jp |

○タイトル（保育計画）

コミュニティガーデン

○主な助成備品

水道設備・砂場・コンテナガーデン

### 1. 実施した保育計画策定の目的

昨今の子どもの環境をみると、地域のつながりが希薄化していたり、子どもが保育園・幼稚園の往復になっていたりと、核家族化により母親に育児の負担が偏ってしまっていたりと、子ども達が日々の中で触れ合う人格が限られてしまっている現状があります。私たちはこの「コミュニティガーデン」を通して0～6歳の大切な人格形成期に多様な人格に出会う機会を提供したいと考えました。加えて、保育園が地域に溶け込む為の窓口として機能していくような願いを込めています。

また、都会には整備された美しい花壇はたくさんありますが、子ども達が自由に関わることができる自然はあまり多くありません。この「コミュニティガーデン」で子ども達が実体験を通して四季や命の息吹を感じることができるような場を作るようにとも考えています。

### 2. 具体的な実施内容

#### a. ワークショップ

毎月一回、保護者とともに文字通り手作業で環境作りをしました。穴を掘り砂場を作り、コンテナガーデンを整え、ウッドデッキ作りに壁に飾るタイル絵作りも行いました。そこには常に対話があり、プロに工事を頼んでいきなり完成させるのではなく、決まった設計図のない中で試行錯誤を繰り返しながら、あえて非計画で進めています。今後も少しずつ手を加えていく予定です。



#### b. ガーデナーさんとの植栽作り

近隣の植栽を管理するガーデナーの方と出会い、子ども達と一緒にコミュニティガーデンの植栽作りを続けています。種を植えて花を咲かせるだけでなく、枯れたら腐葉土を混ぜて土を甦らせ、次の植物へと繋げています。チューリップの球根を年々受け継いでいく事が今の目標です。



#### c. 野菜作り

コンテナガーデンで、野菜作りを行っています。あえて専門家に指導を受ける事はせず、失敗する事も体験の一つとして、楽しんでいます。夏野菜は取れすぎるぐらいでたくさんの方へお裾分けができました。だんだん鳥達が集まってくるようになり、作物を食べられてしまうようになってきました。子どもたちも巣箱を設置するなど、鳥への興味・関心は育っているので、どのように工夫して共存していくか楽しみです。



#### d. お餅つき会

近隣地域の方々をお招きしてお餅つき会を開催しました。子ども達はもちろんの事、大人も初体験の人が多く、また、土地柄もあり多様な国籍の方々に参加頂き、盛況のうちに終える事ができました。六本木一丁目というこの地で、かまどに薪で火を熾し、餅つきができた事はこの場ができた事と地域の方々の協力があつてのことです。





### 3. その成果と評価

地域の方々に見守られながら、子ども達は日々、このコミュニティガーデンで活動しています。通りがかった人が、野菜の育て方のアドバイスをしてくださったり、植栽を褒めてくださったりと自然な形でコミュニケーションが生まれ、社会の一員としての自覚が芽生える機会になっていると感じます。また、出会う人の年齢・国籍が幅広く、住民・ワーカーと様々な人々に接する事で、多様性を受け入れる素地を養っているのではないかと思います。

砂場作りのワークショップでは、お父さん達を中心になって、汗を流しながら生まれて初めてのツルハシ作業に勤しみました。掘れば掘るほど割れた陶器やガラス片、レンガの破片などが出てくる土地でしたが、共に汗を流し活動する事で、子どもと保護者・保護者同士・保護者と職員の交流を図る事ができ、また、土曜日に活動する事で平日にお会いする事ができない地域住民の方々と出会いを持つ事ができました。その後に会った地域の人によると第二次大戦中に焼け野原になったこの辺りでは、瓦礫をそのまま埋めて家を建てたという話を聞く事ができ、地域の歴史を知る良い機会になりました。出来上がった砂場では、日々子ども達がダイナミックに遊んでいます。泥遊びをした経験がなく、汚れる事に及び腰だった子が、全身泥まみれになって遊ぶ姿がみられた時、職員一同嬉しさ一入でした。

野菜作りも、子ども達が熱心に取り組んでいます。種から育て調理までする事で、食物の成り立ちから食卓に上るまでを体験しています。夏野菜は、家庭へお裾分けできるまで収穫できた事で、自尊心が満たされ、他の活動への自信に繋がったようです。

コンテナガーデンや砂場の横に生える雑草も子ども達の良い教材です。自由に摘む事ができるので、食卓に生けたり、花輪作りや見立て遊びにも活用されます。摘む時の感謝の気持ちを忘れず持つ事で日々、自然の尊さを感じています。

#### **4. 今後の課題と展望**

今後はより一層、地域の子育て世帯への支援の場としても活用していく予定です。発達に則した砂場での関わり方講座や青空読み聞かせ会・全身を使って行う絵具体験などを考えています。また、地域へ開放する為に園児の安全が担保でき、且つ、窮屈にならないようなルールも考えていきたいと思っています。

地域の方々と名前呼び合える関係を築き、子どもを中心により良い社会を築く為に人々が共に考え、協力し合い、そこに「してもらう存在」としてだけではなく、地域で生活する一人の人間として子ども達が関わっていく事ができればと考えています。まだまだ始まったばかりの活動ですが、第一歩としての「場」作りを助けて頂いた事に感謝致します。

以上